

平成19年度宮古群島病害虫発生予報第7号(10月予報)

10月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	50	30	40
平 年 並	30	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成19年9月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

要 素	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	25.1	27.7	23.2	174.2	151.3

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

10月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

宮古群島

1 さとうきび

メイチュウ類の防除対策

- a 9月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺虫数は133頭(前年144頭、平年281頭)と平年並であった。
- b 新植圃場では、メイチュウ類による芯枯れ被害はみられなかった。
- c ふ化した幼虫は、夏植された苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- d 夏植の生育初期の加害による芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした防除を行う。
- e 植付時および培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。

サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)の防除対策

- a 9月下旬の調査の結果、本種による芯枯れが多く見られた。
- b 幼虫はサトウキビの地下部(根・根帯・茎)を加害する。
- c 生育初期に加害されると、欠株や芯枯れをおこす。
- d 植付時および培土時に薬剤を施用する。

2 マンゴー

栄養成長期におけるチャノキイロアザミウマの防除対策

- a 9月下旬の調査の結果、一部の施設でチャノキイロアザミウマが多発していた。
- b この時期の不要な新梢は、本種の発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- c 本種は雨に弱いことから、灌水を兼ねて動噴で洗い流すと密度低減につながる。
- d 1回の薬剤散布で効果が出にくい場合は、1週間程度の間隔で数回行う。
- e 薬剤抵抗性が発達しやすいことから、同系統薬剤の連用を避ける。

3 施設野菜(果菜類)

植え付け時の圃場管理について

- a 冬春期の野菜の植え付け時期は、ウイルス病を媒介するアブラムシ類、アザミウマ類をはじめ、コナジラミ類等の難防除害虫の発生が多くなる。
- b 防虫ネット被覆による施設内への侵入防止を徹底する。
- c 植え付け時には粒剤を施用する。
- d 平成19年度病害虫発生予察情報第6号(9月予報)7～8頁参照。